

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|----------------------|
| 事業所番号 | 3150480063 |
| 法人名 | 社会福祉法人 こうほうえん |
| 事業所名 | グループホームせいどう |
| 訪問調査日 | 平成 21年 3月 3日 |
| 評価確定日 | 平成 21年 3月 23日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月3日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 3150480063 |
| 法人名 | 社会福祉法人こうほうえん |
| 事業所名 | グループホームせいどう |
| 所在地 | 鳥取県境港市高松町892-3 (電話) 0859-47-5500 |

| | | | |
|-------|----------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉経営ネットワーク | | |
| 所在地 | 東京都千代田区九段北4-1-9-4F | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月3日 | 評価確定日 | 平成21年3月23日 |

【情報提供票より】(平成21年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 平成 11年 9月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 | 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|---------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り | | |
| | 1 階建て | 1 階 ~ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----|---|
| 家賃(平均月額) | 18,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,100 円 | | | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 9 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 0 名 | | |
| 要介護5 | 3 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 85.4 歳 | 最低 | 78 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | | |
|---------|---------|--------|
| 協力医療機関名 | 九里クリニック | 足立歯科医院 |
|---------|---------|--------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境に立つワンユニットのグループホームであり、玄関は利用者と一緒に作った鉢植えを置き、花で飾ってある。事業内にも、花や絵、写真等装飾を施している。10年目を迎え、原点に立ち返り、利用者にとってのよりよい支援の在り方について自らに問いかけている。とりわけ、今年度は、利用者の重度化という課題について、利用者の看取りに取り組んだ。異動はあったものの、職員の離職はなかった。そのことによる利用者のダメージを最小限にとどめる努力をした。地域との交流も引き続き友好であり、相互に協力していこうとする関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の職員の離職状況に関するストレスの軽減及び勤務体制の工夫及び改善の必要性があがっていたが、今年度は他施設への異動はあったが離職はなかった。異動した職員は他のサービス現場を経験したいという本人の希望による異動であった。そのため、他施設から1名、他業種から1名の採用があり、その職員の育成及び職員間の情報及び共通認識についての課題が新たに上がっている。職員が一同に会して共有する時間が困難な状況ではあるようだが、共通認識をもつことは、利用者支援において重要課題ともいえ、検討が望まれる。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が一同に会して検討する時間を持つことが困難な状況であるため、職員一人ひとりが昨年度の評価を念頭に自分自身の反省とグループホームの課題と感じていることについて、職員会議ノートに記載し、改善について一考する機会をもった。その職員会議ノートは回覧し職員間において共有した。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は調査当日まで5回開催しており、3月末に1回予定しており、2ヶ月に1回の頻度は維持できている。また、会議内容は、その時点でのグループホームの利用者状況を報告から始まり、個別(特に医療ケアが必要な利用者の状況)については、詳細な状況及び家族との連携状況、職員の体制・状況を伝達している。その際、ボランティアの協力が必要であることに対しては、地域自治会で手配をしてくれるなど、地域全体でグループホームをバックアップしていこうという姿勢がうかがえる。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>現在、家族からの意見や苦情は上がっていない。要望に関しても職員側から意向を抽出していこうとするが、利用者が健康で気持ちよく生活ができていればよいということで、細かな内容はない。ただ、利用者のADLの低下による支援上必要な器具等、自己負担がかかることについては、家族と十分話し合い、意向に沿うよう努めている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設9年の施設であり、自治会及び公民館を通じ、地域の行事に参加することで、引き続き交流を深めている。また、同法人内の近隣他施設の行事には、地域の様々な人が参加するため、以前利用していた施設の利用者との交流ができています。現在、利用者のADLの低下により、外出が困難な状況になってきていることから、グループホームへ往訪してくれることでの交流も進んできており、地域との連携が図られている。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念及び年度のスローガン、グループホームの理念は玄関及びリビングの利用者及び家族、職員、来訪者の目に触れる場所に掲示しており、周知している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 日々のミーティングは、昼過ぎに行っており、交代勤務の引き継ぎの他、重要事項の連絡や各種報告を行っている。毎週水曜日を法人の職員行動指針である「互恵互助」を読み合わせる予定をしているが、現時点では、各自内容を確認することという伝達に留まっている。 | ○ | 現在、他部署からの異動と他業種からの採用による職員2名が勤務に入っていること、開所10年目を迎えたこともあり、改めてグループホームに関わる全職員が原点に立ち返る必要性を感じているため、理念の共有、支援に関する認識を共有していく取り組みが必要があると思われる。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 職員が自治会の役員として関わっている他、散歩や回覧板の受け渡しの際には、地域住民と会話を交わしている。また、季節の野菜や果物の差し入れがあったり、畑の手入れの手伝いをしてもらうなど、交流がある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価の項目一つひとつについては検討する時間が取れなかったが、個人の反省とグループホーム全体についての課題について、職員会議ノートに職員全員が記入し振り返りの機会をもった。その内容を共有し、総括して自己評価として取り組んだ。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、今年度は残り1回を控え、2ヶ月に1回定期的開催している。内容は、グループホームの利用者の状況報告やグループホームに対する意見や要望等となっている。また、事業所から協力依頼がある場合には、自治会が即時にボランティアを派遣する等、協力体制が構築されている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 事業所の所長は、生活支援ハウスの所長を兼務しており、利用者の事務手続きや相談等で、長寿健康課と随時連携をとり、情報交換を行っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族には、毎月モニタリングの結果、金銭出納書のコピーを送付し、利用者の状況を報告している。また、身体的な変化があった場合は、速やかに連絡を入れるなど、基本的に電話連絡による報告を行っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事業所では、意見箱の設置、重要事項説明書に苦情連絡先を記載する等、しくみを整備している。また、日常的に家族とのコミュニケーションを大切に、面会の際には、話をする機会を設ける等、意思疎通を図るよう努めている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 今年度は、職員の希望により他部署への異動が1名あった。辞令が降りてから異動日までの期間が短かったが、利用者及び家族へは丁寧に説明をし、利用者へのダメージは少なく、特に不穏になる利用者はいなかった。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人の年間教育計画に基づいた研修計画があり、職員の経験や事業所の状況に応じて受講している。また、事業所内では、終末期ケアについての知識やスキルについて、職員間で共有する機会をつくり、実践に活かしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームの協議会に参加している他、近隣グループホームとの交換研修を行う等、情報交換の取り組みや研修を通して、職員の質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | ホームを利用するにあたっては、利用者及び家族に見学をしてもらっている。また、すぐの入所が困難な場合は、日中ホームで生活する時間をとり、他の利用者となる機会を持つことで、スムーズにホームの生活に入れるよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者を一方的に介助するという立場をとらず、生活をともにしていくという姿勢で対応している。食事や洗濯・掃除等は、職員が声かけを行いながら、利用者の心身に負担がかからないよう配慮し、できることをお願いしている。その際、利用者に敬意を示し、利用者から学ぶという態度で接している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の関わりで利用者の話をよく聞き、意向の把握を心がけている。意思疎通が困難な利用者には、日常の仕草や行動から察し、職員会議で話し合う。花や唄が好きな利用者には、好みの話題を提供するなどケアの実践に活かしている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 月1回はケーキを食べに外出する、なじみの美容院へ行くなど、具体的な意向を取り入れた介護計画を作成している。意向の確認が困難な利用者は、生活歴や日々の関わりをふまえ、家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的には6ヶ月ごと、変化があったときはその都度の見直しを行っている。モニタリングを毎月行うとともに、カンファレンスを開催して作成し、変更のあった箇所は赤字で記入するなどわかりやすくして共有を図り、家族等の同意も得ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|---|---|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 同じ敷地内にある生活支援ハウスの利用者や小学校との相互交流など、地域との交流を活発に行っている。また、デイサービスやショートステイの申請をしており、入居者以外にも地域貢献ができる体制の整備に取り組んでいる。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 引き続き同じ医療機関を受診できる支援を行うが、希望があれば専門科を紹介することも行っている。通院の際には、日常の様子を文書にしてかかりつけ医に情報提供する。受診結果も共有するが、必要に応じ直接電話で確認することもある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期の指針を作成している。利用者に変化があると、家族や関係機関と話し合い対応方針の共有を図っている。今年度は、看取りの事例があった。家族の意向を尊重し、かかりつけ医や関係者と連携しターミナルケアに取り組んだ。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉づかいは丁寧に行う、個人的な話は自室でドアを閉めて聞くなど一人ひとりのプライバシーを尊重したケアを実践している。記録は施錠可能なロッカーに管理するなど、取り扱いにも注意を払っている。また、マニュアルも作成してある。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日利用者に行いたいことを聞き、その日の状態に合わせて対応している。食事時間、入浴時間など利用者一人ひとりが希望する生活リズムやペースを尊重し、自由に暮らすことを心がけてケアを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は利用者の希望を聞き職員が作成する。買い出しは、毎日のように利用者と一緒に出かけ、食事の準備から後片づけも一緒に行う。食事は、利用者と職員と一緒に食べるが、介助が必要な利用者には、さりげなくサポートしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴時間など利用者の希望に合わせたケアをしている。入浴をしたがらない利用者には、時間を空けてさりげなく声かけをするなどの対応をする。入浴を嫌う利用者が清拭を受け入れるときは、丁寧に清拭を行い、身体清潔に務めている。 | ○ | 利用者の重度化に伴い、職員2人の対応で入浴する利用者が増えている。利用者は年々重度化しており、設備面も含めて、安全で安楽に入浴できるための工夫が期待される。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ペン習字、パッチワーク、縫い物など一人ひとりが好きなことや得意なことを行っている。また、おしぼりタミ、毎日の献立書きなども利用者が自分の役割として行っている。孤立しがちな利用者には、みんなと一緒に行うよう声かけをしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 墓参り、神社参り、なじみの美容院に行くなど、利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。また、外出を好まない利用者には、ドライブ、地域の祭り、小学校の学習発表会など、みんなと一緒に外出できるよう取り組んでいる。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中玄関は鍵をかけておらず自由に出入りできる。出入りがあると音楽が流れる設備となっており、急な来客にも対応できる。落ち着かず外に出ようとする利用者に対しては、職員と一緒に外に出て散歩するなどの対応を行っている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害時マニュアルが作成してある。運営推進会議委員の参加も得て年2回避難訓練も行っている。緊急連絡網も作成しており、地域との協力体制も整備してある。また、事業所としての備蓄品も準備している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は1日1700cal水分は1500ccを目安に、毎日、全員の食事量水分量を記録している。カロリーや水分について管理が必要な利用者には、かかりつけ医に直接チェックしてもらい、一人ひとりに応じた助言を得ている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | くつろげる家庭的な雰囲気を大切にして、玄関やリビングに、花やパッチワークが置いてある。飾りつけを変える際は、利用者の混乱を避け、極端な変化がないよう配慮している。ソファを置き一緒に歓談できる共用空間も用意してある。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室へ自由に物を自由に持ち込むことができ、自宅で使用していたダンスや日用品、家族の写真が持ち込まれていた。また、好みの花や近隣の小学生からプレゼントされた折り紙もあった。利用者が落ち着けるよう配慮した居室であった。 | | |

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを合わせて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|----------------|
| 事業所名 | グループホーム せいどう |
| (ユニット名) | |
| 所在地 (県・市町村名) | 鳥取県境港市高松町892-3 |
| 記入者名 (管理者) | 真田 豊子 |
| 記入日 | 平成 21年 2月 22日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | |
| <input type="checkbox"/> | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | グループホーム理念に基づいて、10年目を迎えた経験を生かしたケアに努め実践に努力している。 | | |
| <input type="checkbox"/> | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎日、ミーティング時理念を復唱し理解し日々のケアに反映し、実践している。 | | |
| <input type="checkbox"/> | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 入居時、入居者、家族に説明をしている。運営理念、方針、権利、を玄関に掲げている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | |
| <input type="checkbox"/> | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 自治会員となり、地域の方と顔なじみになって気軽に挨拶等している頻りに、季節の野菜や果物を頂いたり、畑の手入れもして頂ける。 | | |
| <input type="checkbox"/> | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会、公民館を通し、地域の沢山の行事に参加し交流を深めている。(ふるさと塾、運動会、敬老会、文化祭、クリスマス会、とんどさん等)運営推進委員に地域より2名参加して頂いている。小学校との交流 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる | 交流する中で、認知症等ケアのアドバイスをしたり、話しを聞 く機会も有る。近隣の独り暮らしの方への配慮も行い、地域 包括支援センターとの連携も心掛けている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る | 評価項目を職員で共有し、課題については具体的な取り組 みについて話し合い意識の統一をはかることにも活用してい る。 | ○ | 全ての項目をゆっくり検討する事は出来なかつた。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている | 約2ヶ月に1度開催実施し、ホームの近況報告をし、意見、助 言を頂いている。防災訓練も一緒に行い、認知症の方の行 動にも理解を深めて頂いた。食事会も行った。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に組み 組んでいる | 随時、長寿健康課と連携を図り情報交換に努めている。運営 推進委員会にもメンバーとして参加して頂いている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している | 権利擁護を必要とされる方が無かったため今年は勉強の機 会が無いが、生活保護について学ぶことあった。 | ○ | 御利用者で生活保護の方居られ、受診に関するシステム が職員に共有されて居なかつた。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないように注意を払い、防止に努めている | 日々のケアにおいても、職員がお互いのケアについて注意 できる関係作りをし、虐待防止に努めている。特に言葉の虐 待に気をつけている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|---|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約書、重要事項説明書を分かりやすく説明し、同意を得ている。疑問等有れば理解して頂けるよう説明している。法人内のグループホームで情報の共有し、重要事項説明書の変更もおこなった。</p> | |
| 13 | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>利用者が日頃から、自分の思いが話せるような関係作りと気配りに努めている。家族へは法人が行うアンケートや日頃気軽に話せるよう努めている。</p> | |
| 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> | <p>月1回モニタリング、金銭出納書のコピーを送付し生活の様子や健康状態の報告をしている。身体的変化は細やかに報告し、受診等の協力も得ている。</p> | |
| 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>家族とのコミュニケーションを大切にし、意見箱設置したり、重説に苦情連絡先等記載し対応している。面会時お話の機会を設けている。</p> | |
| 16 | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>運営者は月1回ホームを訪問し、職員、利用者との交流につとめている。</p> | |
| 17 | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>日中に職員配置を厚くし、利用者の希望に添えるよう心掛けている。特に外出や、交流会の対応にも配慮している。</p> | |
| 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>法人内の異動も極力少なくし、馴染みの関係でのケアに心掛けている。異動したり、新職員が入った場合家族に紹介している。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|--|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>法人の年間教育計画や研修は必ず、職員へ周知し参加も促す。法人内のグループホームも年4回の勉強会も実施している。</p> | <p>○</p> <p>勤務時間内の研修が多く、全員参加は無理。教育訓練記録を参考に代表で参加しフォローアップしている。</p> |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>年1回3日間、他グループホームとの相互研修を行い、良い勉強の機会となっている。法人内はステップ会議にて情報交換している。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>運営者は月1回訪問し、職員への声かけの実施。管理者は、日頃の様子を把握し、ストレス軽減に向け話しを聞くよう努めている。総合施設長が良く相談に乗って下さる。</p> | |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>法人内で、いろいろな表彰制度を設け、職員がより一層向上するよう働きかけている。今年度は消火活動に対し本部より表彰して頂く。</p> | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>絶えず、利用者の思に耳を傾け、一緒に考え、行動していく。特に担当者が中心となり、情報は職員で共有していく。</p> | |
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>入居前より、家族の不安や困りごとを聞くようにし、入居後は面会時は必ず家族と話す時間を持つようにしている。</p> | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|---|---|------|--|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | どの様に支援することが一番か、他部署と連携を取りながらその方にとって一番良い支援をしていく。地域包括支援センターや訪問看護等との連携に努めている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所されても、御利用者が落ち着かれるまで、夕方外泊され、馴染まれてゆっくり対応したケースもある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | ご利用者を人生の先輩と尊重し、日々の生活においてもご利用者にいろいろ教えていただき共により良い生活が送れるように勤めている。 | | |
| 28 | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 家族、職員と一緒にのご利用者を支え相談しやすい関係作りに務めている。 | ○ | 連携を取る様に努めているが、家族の関わりが以前に比べ、全体的に少ない様に思える。 |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 病院受診、美容院、墓参り等家族の協力を頂き家族との繋がりが、遠のかないよう支援している。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご利用者が住んでいた、馴染みの公民館活動に月1回は参加出来るよう援助委員の方と協力しながら、楽しみへの支援をしている。地域の方のボランティア活動も月平均3回あり馴染みの関係が続いている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 気の合った方とテーブルを一緒にしたり、ドライブに出かけたり、日頃あまり会話されない方は、職員が橋渡しをすることで、会話出来るよう支援している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|-------------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | サービス利用後も良い関係作りに勤めている。特に他施設への入居や入院等の場合面会に行き、家族が遠方の場合等様子報告も行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者の思いを生活支援計画に反映させている。思いの表現が困難な方は、日々の生活行動等から本人の思いに近づけるよう努めている。 | ○ | 認知症の重度化に伴い、氏の思いやがはっきり聞けない方が多くなってきた。 |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 法人独自のヒストリーシートを活用し生活歴、エピソードの把握に努めている。地域交流からもいめいめな情報を得る事もある。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 日々の変化の共有を連絡ノートやミーティングを通し、把握し気配りに努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ご利用者、ご家族からの意向、職員の情報を取り入れ生活支援計画表作成に努めている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | ご利用者、家族と相談しながら半年に一回見なおしを行っている。状況が変化した場合その都度状況に即した見なおしを行うよう努めている。12月は2名の変更申請を行った。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録、連絡ノート、モニタリング等で情報を共有し、介護計画の見なおしに努めている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ショートステイ、デイサービス等の申請をしている。 | ○ | 現在、市が検討中 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 地域資源を活用しながら、ご利用者が生活しやすいよう支援している。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | ご利用者、ご家族と相談しながら他のサービスの提供も受けている。ソフト食の提供、歯科衛生士の訪問、OT、PT等協力して頂いている | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進委員のメンバーでも有り、情報交換しアドバイスいただくこともある。(入居前の状況等) | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の意向を重視し、かかりつけ医を決めている。ホームには月に1回往診にきていただく先生もある。家族との情報の共有を図っている。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|---|------|----------------------------------|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 心療内科の先生の往診が月1回あり、家族を交えて相談したり、日頃の様子の報告も行いご利用者の健康管理に努めている。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 訪問看護ステーションと契約し日常の健康管理に努めている。管理者看護師の資格を有している。 | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院先の主治医と連携を図りながら、退院に向けての話し合いも行っている。入院中は職員も面会に行き、ご利用者の安心感に繋がるよう努めている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 家族、ご利用者の思いを尊重しながら、ホームドクターとも相談しながら情報を共有しケアに努めている。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | ホームのできる事、できない事を明確にし、ご利用者、家族に説明し納得していただきながら、ケアに努めている。家族の意向を職員にも常に共有している。11月1名看取りケア行った。 | | |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 移動される施設の相談員、介護職員、看護師に情報提供し、ご利用者、家族には何度か見学にも行って頂き不安の無い様支援している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 声の大きさ、タイミング、話の内容に配慮しながらご利用者に言葉かけをしている。[特に排泄時、入浴時等] | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | ご利用者の状態に合わせて言葉かけをしている。ご利用者の能力が発揮出来るよう共に作業しながら支援している。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者の生活リズム等職員が共有し、本人の希望に添えるよう支援している。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 在宅から行きけの美容院へ家族の協力を頂きながら行っている。いつも清潔な物を着て頂ける様配慮している。本人の好み優先。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者と相談しながらメニューを決めたり、買物にも出かける。食事の準備等も協力して頂きながら作る。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 食事に関しては、嫌いで食べれない物には、代替りの物を提供している[魚、肉等]飲み物等も好みを重視している。 | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|------|--|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | ご利用者の排泄パターンを把握しながら支援している。車椅子で 全介助の方も昼間は体調に配慮しながら、トイレにて排泄出来る様支援している。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | ご利用者の希望や体調に配慮しながら支援している。 | ○ | 普通浴への出入りがだんだん困難な方も増え、今後ハード面の改善必要。浴槽を跨ぐこと困難となる。 |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中の活動量を増やしたり、気分転換に努め、睡眠に向け工夫している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ご利用者の趣味や、やってみたい事を聞きながら活動出来る様支援している。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご利用者がお金を所持されていないが、事務所で預か伝わる事を 説明し、ご本人の買物は一緒に出掛け購入するようにしている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域のイベント、他部署のイベント、買物等少しでも多く出かける 機会がもてるよう支援している。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 個々の希望を気いて、家族と共に実現に向け努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙等は返事が書けるよう支援している。電話も希望が有ればかけたり、職員への用事の時もご利用者と代わり話をさせて頂いて居る。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 来客時、笑顔で対応しお茶やお菓子をお出しし、和やかに過ごして頂ける様配慮している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人で抑制廃止に取り組み、身体拘束の廃止を行っている。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 夜間のみ、外部からの侵入者へのリスクに配慮し部屋の窓の鍵をかけている。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員は昼夜問わず、ご利用者の様子を定期的に確認し対応に努めている。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | ご利用者の状況に合わせて、物品の管理をしている。日中は洗剤や包丁は職員と共に使用するが、夜間は施錠できる場所へ保管している。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 生活支援計画表にリスクを記入し事故防止に努めている。法人独自の事故報告書を作成し再発防止に努めている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 常にご利用者の急変を予測し、対応を職員間で話しあっている。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 定期的に避難訓練の実施〔専門機関立会い〕災害発生時は地域の協力も得れるよう連絡網作成。防災訓練も一緒に実施した。食料、飲料水の準備をしている。次るんでは火災報知装置、スプリンクラーも検討されている。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 家族とリスクに対する話し合いをし、支援に対しても意見を頂きながら、楽しく生活していただくよう支援している。転倒リスク高い方に、センサーマット24時間使用し対応している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 職員は利用者の日頃の状態把握を状態変化の早期発見に努め、情報の共有。かかりつけ医とも連携を図っている。家族にも報告し、共通意識に努めている。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は病院からの処方箋を必ず読み、目的、副作用、用法や用量を確認し医師の指示通りに服薬している。医師とも連携を図り、薬の必要性の検討を行っている。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘薬に頼らないようし、水分、運動、食事(繊維の多い物)に気を付け、個々の状態に合わせて配慮している。カスピ海ヨーグルトやせん茶等も飲んでいる。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来かねる方は、職員が出来ない所を支援し、清潔保持に努めている。歯科衛生士、STとも連携している。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日1700cal水分1500CCを目安に個々の状態に合わせて、好みの物を提供している。水分量、食事は記録し、かかりつけ医と連携し、体調管理に努めている。ドクターの指示で1200ccの方もいる。 | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | マニュアルを参考に周知徹底している。うがい、手洗い、除菌の徹底手袋を使用し保護している。手洗いに関しては、手洗いキッドで手の汚れ等体験した。 | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | まな板、布巾は毎回消毒している。新鮮な食材を使用している。炊事の際は冷蔵庫をチェックし賞味期限内に使用している。 | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関周りをいつも綺麗にし、四季折々の草花を飾り、季節を感じて頂き、訪れやすい雰囲気作りをしている。 | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 華美にならない様、また高齢者に住みよい色使いと家庭的な雰囲気になるよう配慮している。食事作りの音、匂い、季節の花等五感に働き掛ける様に配慮している。花の有る暮らしに配慮している。 | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った方が話しやすいよう、居間にソファを置いたり、中庭にベンチを置いたと居心地の良い空間作りに配慮している。 | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|--|---|------|------------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は自宅で使用していた物を持参して頂いて居る。馴染みの物に囲まれ安心して暮らせるよう家族と相談しながら支援している。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 全ての場所の定期的に空気の入れ替えをし、空気清浄機、加湿器換気扇等利用しながらこまめに実施している。 | | |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者の状態に合わせた器具の使用をしている〔車椅子、歩行車等〕 | ○ | 10年目を機に個々のレベルに合わせた、椅子、テーブル等考えてみたい。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 職員が過剰に支援するのではなく、ゆっくり待つ姿勢を心がけ、出来る力を生ず様努めている。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 建物の周りに花を作ったり、ホームの前に畑を作り近隣の方と、花や野菜作りをしている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|--------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度 |
| | | <input type="radio"/> | ③たまに |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="radio"/> | ②少しずつ増えている |
| | | <input type="radio"/> | ③あまり増えていない |
| | | <input type="radio"/> | ④全くいない |
| 98 | 職員は、活き活きと働けている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | <input type="radio"/> | ②職員の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③職員の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | <input type="radio"/> | ②家族等の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③家族等の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設時から地域の方に声を掛けて頂き、盛んにいろいろな交流を行っている。小学校、公民館、ふれあい塾、他部署の行事にも参加し外出の機会多い。